

都市再生整備計画 フォローアップ報告書  
小川地区

平成24年8月

熊本県宇城市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	広場及び公園利用者及び来訪者数	人/年	72,515	100,000	132,227	確定	○	あり	114,458	H24年3月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	人工芝コート、屋内多目的コート、クラブハウス、寄宿舍を一体的に整備した市立ふれあいスポーツセンターの整備は、既設の観音山総合運動公園とともに、市の生涯スポーツゾーンとして位置づけられる小川地域の拠点性を高めた。また、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の活動支援、同法人主催によるイベント活動の活性化、まちづくりの方向を検討する地域住民によるワークショップ開催、案内板整備はスポーツセンターの認知度を高めた。これらの相乗効果により、ふれあいスポーツセンター、観音山運動公園等の利用者及び来訪者が増加した。
指標2	宇城市観音山ふれあいの里及びクラブハウス利用者数	人/年	1,354	2,000	2,829	確定	○	あり	2,675	H24年3月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	観音山ふれあいの里(宿泊研修施設)は築16年を経過し老朽化していたが、施設改修により耐久性・安全性が確保され、団体宿泊を中心に利用者数が増加した。クラブハウスについては人工芝コート、屋内多目的コートにおけるサッカーやイベント利用により宿泊室の宿泊者及び体憩利用者数が増加した。
指標3	NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の賛助会員数	人/年	0	380	31	確定	×	あり	81	H24年3月	△	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	当初は賛助会員数314名を確保していたが、登録更新が進まず、確定値は目標値(380人)の5分の1程度にとどまった。ただし、同法人によるイベント活動等は地域の交流機会を生み出すことに結びついており、活動理念への賛同者も増加しているものと考えられ、評価できるものである。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	イベント開催回数	回/年	68	98	確定	○	あり	94	H24年3月	△	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	従来の観音山総合運動公園、稲川グラウンドに加えて、市立ふれあいスポーツセンターを整備したことにより、イベント開催の場としての魅力が高まった。また、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の活動を支援したことで、地域住民によるワークショップ開催による認知度の向上等とあいまって集客力のあるイベント等が開催された。	
その他の数値指標2					確定				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標3					確定				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

## 2. 今後のまちづくり方策の検証

### 様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>成果を持続させるために 行う方策</li> </ul>	スポーツを活用した地域の活性化	NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城と「各種スポーツイベント事業」の業務委託契約を結び基本的に年間を通して、スポーツイベントを開催した。(各種スポーツ教室、講演会等)	保育園児から高齢者までを対象としたイベントを計画・実施し、幅広い層の地域住民へスポーツに対する意識の向上のみならず地域的な活性化を促した。	更なる地域活性化を実現するには、地域住民のみではなく、市外のスポーツ志向者へ、施設の紹介・周知を行い、利用者層の拡大を図らなければならない。今後、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城と協力・連携を図りながらスポーツの方面から地域の活性化を実現していかなければならない。
	避難地として利用可能な広場(空地)としての位置づけの明確化と平常時の活用	なし	なし	いつ何時起こるか分からない災害等に備えて、施設・広場を避難所と明確化が必要である。
<b>改善策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりの目標を達成するための改善策</li> <li>残された課題・新たな課題への対応策</li> <li>その他 必要な改善策</li> </ul>	利用者ニーズに対応した質の高いサービスの提供(クラブハウスの研修・会議室の利用促進含む)	指定管理者制度の導入に向けた検討委員会の設置。	検討委員会を設置し、指定管理者導入を検討しているが、決定には至っていない。	PDCAサイクルによるサービスの改善など、質の高いサービスを提供するために、施設活用に関して最適化する指定管理者をできるだけ早急に決定する。
	市道の一部未整備区間の早期整備と観戦マナーの啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・益中線の交差点改良工事に併せて歩道を新設(L=100m W=2.5m)</li> <li>24年度は用地取得、25年度に工事発注</li> <li>・施設利用者(代表者)に対し、使用許可書を渡す時に、観戦場所等の注意事項を説明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、用地交渉中</li> <li>・以前より観戦場所に関しては、禁止区域での観戦者は減ってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回(L=100m)の歩道新設により、歩道網として整備完了。</li> <li>・観戦場所と観戦マナーの徹底を記載した施設使用申請書(許可書)を作成する。更に必要場合は啓発看板を設置する。</li> </ul>
	観音山ふれあいの里の利便性等の向上	施設のパンフレットを作成し、関係各所に配布設置した。	パンフレット配布の効果として具体的には短期的な結果は出ていないが、長期的な効果波及を視野に入れている。	施設の利便性の向上を図るには、老朽化した備品・器具を交換を早急に行い、作成したパンフレットを更に効果的に活用する。多くの利用者呼び込むとともに、リピーターの数を増大させるための施設の改良を行う。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

### 様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

# 都市再生整備計画(清算報告)

オガワ  
小川地区

くまもと 熊本県 うき 宇城市

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	熊本県	市町村名	宇城市	地区名	小川地区	面積	300 ha
-------	-----	------	-----	-----	------	----	--------

計画期間	平成 20 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 20 年度 ~ 平成 23 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標  
 地域資源を活かし、生涯スポーツを通じた地域間の交流促進や安全/安心な地域コミュニティの形成を図るまちづくり  
 目標1 地域資源である総合運動公園をはじめとした多目的広場等の機能を高め、来訪者及び利用者の満足性・利便性の向上を図る。  
 目標2 生涯スポーツによる都市と地域の交流を通じ、来訪者及び地域住民などと施設の利用者数の増加を図る。  
 目標3 地域の防災性を確保することにより、地域基盤の整備基準が向上でき、安全・安心な地域コミュニティの形成を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

■熊本県宇城市(人口6万4千人、面積189Km<sup>2</sup>)は九州の中央、熊本県のほぼ中央に位置し、九州の大動脈である国道3号と九州自動車道が南北に走り、西は天草、東は宮崎県への結節点という地理的条件に恵まれ、美しい田園風景と不知火海の文化に彩られた自然環境、そして、熊本市と八代市の間中部にあり、都市的機能を併せ持つバランスのとれた水と緑と心豊かな地域である。  
 ■本地区(旧小川町)ゾーンは、平成17年1月に合併した5町の中でも、元々スポーツ活動が盛んな地域でスポーツに対する理解度、さらに九州各県から車で2時間以内圏域といった地理的優位性においても、恵まれた地域である。  
 ■近年、県内の主要サッカー大会や県内外のサッカー競技者の合宿等が、都市公園内の観音山総合運動公園などで開催され、本地区への入り込み客数や宿泊者数の増加の要因となっている。  
 ■合併した際の新市建設計画の主要3施策の中で「誇りのあるふるさとづくり【誰もが楽しめるスポーツの振興】」として、スポーツは健康の保持促進、体力の向上のみならず、連帯感など精神的充足や楽しさ、喜びを与え、またとりわけ青少年にとっては、人間形成により影響を与えるなど、その意義は大変大きなものであると謳ってある。  
 ■社会教育施設の核となるスポーツ拠点施設等の整備が不十分であることから、憩いの場としての地域コミュニティが形成されず、その結果、スポーツを通じた地域間交流が少ない。  
 ■個々の団体レベルでのスポーツ活動が盛んな地域であるが、まちづくりを目的とした活動はほとんど行われていない。

課題

■少子高齢化の進展や国際化・情報化の進展により、住民の生活様式や価値観が多様化・個性化し、それに伴い産業構造にも変化がみられる中で、地方都市においては、地域が有する資源や既存施設を有効に活用し、知恵と工夫により他にないことを先駆けて行うことで地域の活性化を図る必要がある。  
 ■宇城市の中心市街地(旧松橋町)は行政機能が集積しており、また商業・工業関連機能の中心的役割を担っているが、本計画である小川地区としては、スポーツ施設の充実により、宇城市の生涯スポーツゾーンとしての確立を図ることで、旧小川町の活性化を図る必要がある。  
 ■合併後の新市の生涯スポーツ拠点として、来訪者の通過地域ではなく、人口の交流地域となるべく、周辺地域をはじめ、各種団体等との連携した魅力ある生涯スポーツレクリエーション構想の構築をする必要がある。  
 ■市地域防災計画に掲げられている防災緊急避難地には、本計画内には主要建物(小川支所、河江コミュニティセンター、地域福祉センター、各学校)のみであり、緊急避難地として多目的広場を防災公園として位置づける必要がある。  
 将来ビジョン(中長期)

■防災機能を有し、地域のコミュニティ・憩いの場としての地域公園整備により、来街者と住民が交流する賑わいと活気あふれるまちづくりによる生涯スポーツを通じた賑わい再生。  
本市の将来都市像として掲げられている第1次総合計画の中で、小川地区に関してはスポーツ振興の拠点として位置づけられている。  
新市建設計画では、3つの基本目標【①誰もが暮らしやすいまちづくり、②誇りあるふるさとづくり、③力強い産業づくり】が掲げられており、その中で、本地区は行政機能と商業集積を生かした、新たな拠点形成を目指す「新都市創成ゾーン」として、安心・安全で快適に暮らせるまちづくり、誰もが楽しめる生涯スポーツ推進・振興の拠点となるべき地区として位置づけられている。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
広場及び公園利用者及び来訪者数	人/年	■平成18年度宇城市小川町体育施設年間利用集計表【観音山総合運動公園(グラウンド及びテニスコート)、稲川グラウンド】	公園として施設整備することによる魅力・活用度が向上し、各種団体等と連携することで、来訪者や施設利用者増加が見込めることから、指標として38%増を目指す。	72,515	H18	100,000	H23
宇城市観音山ふれあいの里及びクラブハウス利用者数	人/年	■平成18年度宇城市小川町体育施設年間利用集計表【宇城市観音山ふれあいの里(宿泊・利用)】 ■クラブハウスの宿泊・利用	地域コミュニティセンターとして、再整備され、地域住民はもとより、各種団体等の協働による地域資源を活用したまちづくり活動等で交流が活発化することから指標として、48%増を目指す。	1,354	H18	2,000	H23
NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の賛助会員数	人/年	■生涯スポーツを通して地域活性化を図るための活動に賛同する会員数	賛助会員が増加することで生涯スポーツを通してのまちづくりの充実が期待され、地域資源を活用した交流の促進が図られることから、指標として右記の通り定める。	0	H19	380	H23

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・整備方針1 【公園などのハード整備を進める】</p> <p>■地域資源である都市公園内の観音山総合グラウンドをはじめとしてこの地域をスポーツの拠点としての位置づけを図るため、整備する公園等(多目的広場及び屋内多目的広場、並びに地域交流センターとしてのクラブハウス)で施設の充実性をアピールする。また、来訪者及び利用者の満足性や利便性の向上を図る一環で、朝・昼・夜問わず、施設開放を行うため夜間照明や防護ネットを整備する。</p>	<p>公園(基幹/多目的広場施設整備) 公園(基幹/屋内多目的広場施設整備) 公園(基幹/屋外照明施設整備) 公園(基幹/防護ネット施設整備) 公園(基幹/給水・散水施設整備) 地域生活基盤整備(基幹/施設情報等案内板) 高次都市施設(基幹/クラブハウス) 地域創造支援事業(提案/宇城市観音山ふれあいの里施設整備) 地域創造支援事業(提案/クラブハウス) 関連事業(NPO/寄宿舍)</p>
<p>・整備方針2 【整備した施設の有効活用を図る】</p> <p>■地域間交流の促進を目指すため、地域住民をはじめとした生涯スポーツ団体等との交流拠点(公園や施設)への誘導手段として施設情報等案内板でアクセス道路等を含め情報を提供することでスムーズな誘導が可能となる。また、施設の有効活用の観点から各種イベントを開催することで、地域住民はもとよりスポーツを通じた交流の増進を図る。</p>	<p>地域生活基盤整備(基幹/施設情報等案内板) 高次都市施設(基幹/クラブハウス) 地域創造支援事業(提案/宇城市観音山ふれあいの里施設整備) 地域創造支援事業(提案/クラブハウス) まちづくり活動推進事業(提案/生涯スポーツイベント) まちづくり活動推進事業(提案/各種イベント) 関連事業(NPO/寄宿舍)</p>
<p>・整備方針3 【今後の施設の活用方法を検討する】</p> <p>■施設の有効活用・組織の充実及びネットワークづくりを通じて、子供からお年寄りまで、「だれもが、いつでも、どこでも」を合言葉に生涯を通じてスポーツに親しめる環境を創出し、施設の有機的なネットワークを構築する一環として、防災公園的要素を兼ね備え、地域のコミュニティ形成の一助として寄与できるよう地域住民の公園として整備する。 ■地域資源である都市公園等が充実し、拠点として位置づけられるような取り組みをソフト面から促進し支援しながら、安心・安全な地域コミュニティ形成を図る一環として、調査・分析を踏まえ地域のあるべき姿などを総合的に捉えながら、拠点の活用を探る。</p>	<p>公園(基幹/多目的広場施設整備) 公園(基幹/屋内多目的広場施設整備) 公園(基幹/屋外照明施設整備) 公園(基幹/防護ネット施設整備) 公園(基幹/給水・散水施設整備) まちづくり活動推進事業(提案/拠点活用ワークショップ) まちづくり活動推進事業(提案/NPO等支援事業) 道路(基幹/市道益中線他1線)</p>
<p>その他</p> <p>■事業完了後の継続的なまちづくり活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□事業完了後、整備された施設の利活用実態を検証するとともに、NPO等と連携を図りながら地域とともにまちづくりの推進担い手の育成に努める。</li> <li>□観光・福祉等の各種団体等と連携を密に図り、来訪者や施設利用者及び地域住民のニーズを取り入れ、それに対応したまちづくりを目指す。</li> <li>□観光客等の誘致に向け、現在継続して行っているイベントや整備された施設を活用した新たなイベントを開発し、交流人口の増大を促進する。</li> </ul> <p>■交付期間の計画管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□各種事業を円滑に推進し、目標に向かって確実な効果をあげるために、NPO等の各種団体と協働し事業効果について評価や事業の進め方を検証する。また、市の広報誌はもとより、あらゆる情報網を活用しながら、積極的に情報を公開する。</li> </ul> <p>■各施設の設計にあたっての住民意向の反映について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□地域資源であり、地域資源となる施設整備については、住民説明会によるワークショップを活用して、住民意向を反映しながら、各種団体等と協議しながら事業コンセプト、事業内容・活用方針等を検討・精査するとともに、今後の拠点となるべく施設の利用方策についても協働路線をとっていく。</li> </ul> <p>■その他の計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□先般、スポーツ全般の普及活動を展開するNPO法人が設立され、その拠点となる施設が平成20年に整備されることに伴い、その施設及び団体を含め、本計画との整合性を図りながら連携したまちづくりを行うことにより、なお一層の地域活性化が期待できるし、地域の起爆剤となることも期待する。また、NPO法人等の各種団体と連携により、県内外との交流拡大など、本施設整備を活用した観光等振興を図る。</li> </ul>	

